

別記様式（第5条関係）

会 議 録

| | | |
|----------|---|---|
| 会議の名称 | 令和5年度 第5回行政評価委員会 | |
| 開催日時 | 令和5年11月17日(金) 午後5時30分から 午後7時30分まで | |
| 開催場所 | 市役所本館2階庁議室 | |
| 委員名 | (1) 出席委員 加留部貴行、橋内京子、木本圭子、芹野千佳子、中川孝晃、山下永子 (2) 欠席委員 近藤春生 | |
| 所管課職員職氏名 | 福津市長 事務局 経営企画部長 経営企画部経営戦略課長 経営企画部経営戦略課経営戦略係長 経営企画部経営戦略課経営戦略係 | 原崎智仁 花田積 向井泰博 山本素子 首藤春風 |
| 議 | 議 題 (内 容) | 評価振り返り 答申書案のとりまとめ |
| | 公開・非公開の別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 |
| | 非公開の理由 | |
| | 傍聴者の数 | 1名 |
| | 資料の名称 | 次第 答申 |
| 会議録の作成方針 | <input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 | |
| | <input type="checkbox"/> 要点記録 | |
| | 記録内容の確認方法 | |
| その他の必要事項 | | |

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

第5回行政評価委員会会議録

1. 会長あいさつ
2. 本日の流れ
3. 答申案検討
4. 今年度の振り返り
5. 答申
6. 来年度以降の進め方

1. 会長あいさつ

会長

今年度の行政評価委員会としては今回が最終回である。本日は皆様に評価いただいた事業のコメント案を集約したものを確認していただき、とりまとめをする。その後市長に答申を出す。

3. 答申案検討 (抜粋)

会長

資料として、当日私がホワイトボードに書いたものに加えて、委員の皆さまから当日言い尽くせなかったことなど肉付けしていただいた意見等を集約したものを配布している。

まずは、コメント案にお目通しいただきたい。

○公共施設の使用料、利用料の見直し/大規模公園の使用料の見直し

委員

46行目「施設利用者は～納税者を想像し」という記述はわかりづらい。使用者が安く使っているのは、使っていない市民が支えているからであるという内容を入れてほしい。

委員

「施設を利用していない市民も納税という形で、維持管理費を負担していることを理解する必要がある」というような書き方が良いのではないか。「想像」という言葉もわかりづらい。

委員

「現在の安い使用料で使用できるのは影の負担者がいるからであることを前提に、適正な使用料の検討も理解する必要があるのではないか」というような内容を入れてほしい。

細かく言わなければ伝わらない。

委員

32行目「まずは全体から俯瞰し～理解や認知を進める説明」についても、自分が使用していない施設も含めて、ありとあらゆる公共施設が税金によって支えられているということを市民に知っていただく説明の機会を設けるべき

で、そのうえで受益者負担のある使用料について考えるべきであるという内容も含めた方が良いのではないか。
俯瞰の視点を行政が伝える必要がある。わからない方は説明されなければ本当にわからない。

委員

学生も「実際はコストがかかっているものの無料で使わせてもらっているサービス」には何があるかといわれても、すぐには思いつかない。影の負担について想像ができていない。

会長

全てにコストがかかっており、誰かが動かしているということが想像できていない。

委員

全体的な公共サービスのコストに関する周知をすることを大前提とし、使用料の受益者負担について問わなければ前と同じことになってしまう。
必要性の理解や認知を進める前に、コストがかかっているという事実を説明しなければならない。
説明は難しいが、広報紙に掲載されていたグラフはわかりやすかったので、あのようなことをしていく必要がある。

委員

「公共施設そのものの必要性」の前に、「維持管理、運営の仕組みや税金の使われ方について市民の理解を促す機会を設ける」といった内容を加えた方が良いのではないか。

会長

46行目は「施設を利用していない市民も“納税”という形で施設を維持するために見えない負担をしていることなど、住民は市全体の利益を図るためにお互いに負担し合っていることへの理解を進める必要性があり」ではどうか。

全委員

賛成

委員

31行目についても公共施設の維持管理に税金がかかっているという同様の内容を入れなければ受益者負担につながらないのではないか。

委員

「税金が投入されている」という内容をしっかり入れた方が、46行目につながるように思う。ただ必要というのではなく、市民の皆さんが負担しているということを入れてほしい。

会長

「道路や橋脚なども含めた全ての公共施設には、税金が投入されていることへの理解や、認知をすすめるための説明を市民に向けて行わなければ市民の理解につながらない。」はどうか。

全委員
賛成

会長
お互いに負担し合っているのであり、使っている人は特に負担をしてほしいということである。

委員
33行目について、「理解と認知」ではなく「認知を進め、理解を促進する」というような表現が良い。
「説明をする」という表現が引っかかっており、説明は今までもしてきたが、その先に理解や共働などがある。

委員
「説明」とは公共施設に税金が投入されているという内容を伝えることであり、その説明をしなければ理解と認知が進まないということではないか。行政がその説明をまず行う必要がある。

委員
説明では一方的な印象があるため、説明と対話という表現など、お互いに対話をすることで理解を進めるとした方が良いと思う。

会長
「まずは全体から俯瞰し、道路や橋脚なども含めた全ての公共施設には、税金が投入されていること認知するための説明と対話の機会を増やし、理解を促進する方策を市民に向けて行わなければ市民の理解につながらない」でどうか。

全委員
賛成

委員
今まで行っていた説明に加え、新たなアクションとして対話が出てきているため、良いと思う。

会長
ただ行政が持っている情報を一方的に流すだけではなく、市民も市民として認識するような学ぶ機会を提供しなければ進まない。

事務局
現在、「理解」という言葉が二度出てきている。

委員

二つの「理解」は前者は公共施設全体について、後者は利用料の負担増額について表しており、意味は異なる。

会長

後者は「納得につながらない」に変えるということでしょうか。

全委員

賛成

○防災

24行目について、自分自身が消防団の身分や位置づけを知らないため、活動だけでなく身分や位置づけ、報酬、役割などについても紹介してほしい。報酬を入れることで、加わる人も増えるかもしれない。

数の確保は重要であるため、団体活動の維持の重要性について盛り込んでほしい。

会長

30行目に「消防団の価値」という言葉を入れているが、前の文脈にも出した方がよいということか。

委員

消防団が自分と関係のない組織と思う人や消防署の職員と消防団の違いがわからない人も多くいると思う。

委員

26行目「消防団の活動、実績」の前に「消防団が担っている役割」についても追加してほしい。やっている事だけでなく、立ち位置や立場、担っている役割についても市民に分かりやすく宣伝してほしい。

会長

委員のご指摘については、どのようなニュアンスで入れてほしいか。

委員

消防団は希望制ということで間違いではないか。

事務局

勧誘も行っているが、基本はその通りである。最終的には消防団長による任命行為があるが、まずは希望していただくところから始まる。

委員

消防団とは有志の一般市民の方が支えている団体であるというニュアンスを入れてほしい。

委員

消防団の車もサイレンを鳴らすのか。

事務局

消防車と機能はほぼ同じであり、火事の際はサイレンを鳴らし、道を開けていただく。

消防団員は消防署職員と同じ公務員、ただし非常勤特別職という扱いである。

会長

23行目「敬意を表したい。」の後に「消防団が住民有志によって組織され、私たちの生命・財産を守ってくれている大切な存在であることを、もっと市民に知ってほしい。」と挿入することでどうか。

要は住民同士でやっているということである。

全委員

賛成

4. 今年度の振り返り

委員

行政評価であるので、各回で評価の切り口について提示していただけるとやりやすい。資料はもう少し早めにいただき、当日の説明はポイントだけでよい。

そうすれば、ポイントに応じて各委員が自身の特性や専門分野等を生かして評価ができるのではないか。今はその時に見たものに対してその都度気づいたことを言っているため、漏れなども生じる。

会長

原課がどのような問題意識をもっているのか、何に困っているのかなどの問いがあった方が話をしやすい。原課が気づいていない着眼点、問題点などについては、その時にこちらから指摘する形となるだろうが、まずは原課に問いを提示してもらうことで、そこから話を始められる。話が進むうちに問題点が変わることもあるが。

委員

前回の行政評価委員会の際は論点を先に提示していたのか。

会長

今回はそのようにしていた。

委員

自分は事前に資料を送付していただいても、資料を読む時間があまり読めないため、先に説明動画などを送っていただくと「ながら聞き」などができるため助かる。

委員

同様である。

今回は短期に集中していたことで、資料を読む暇が取れなかった。

自分としては、開催日程は余裕をもって組み、早めに資料や動画などを送ってほしい。

使用料の回などは、数字や算出表などを沢山送っていただいたが、何が聞きたいのか論点がわからなかった。

委員同士の議論や対話を深めるためには時間が必要であるため、説明時間を削ってほしい。

委員

クローズドの YouTube などでも上げていただくと、倍速や聞き直し等もできる。コメントを先に入れておくこともできる。概要欄にいつ何の説明をしているかなどを書くなどしていただければ、聞き直しなどもしやすい。動画を活用いただければ当日は対話の時間を長く取ることができるため、検討することも考えてほしい。

委員

担当課の説明は以前の行政評価委員会でも長かったか。

会長

必要な説明もあったが、ポイントと何に困っているかなどの論点の提示に重きを置いていた。

委員

沢山資料が頂けることはありがたいが、全て読むことは難しいので、説明や資料はポイントを絞ってもらったらよい。

委員

練習という意味でも、10分以内などと制限をつけていただけると良い。

事務局

職員のスキルアップにもなる。

会長

メリハリをつけた説明をしてほしい。

委員

資料はデータで送ってもらえればよい。

会長

郵送でなく、まずメールで送っていただけると良い。可能な環境に皆いらっしやる。

委員

その中に動画があれば尚効率的である。

委員

そのような方針をここから作って広まれば、会議や審議会のプラットフォームのようなものができ、学びの財産となる。

会長

そのような形でDXを進めてもらえればよい。

委員

今回は間隔が狭く苦しかった。

会長

今年度は初年度で急遽の調整だったので致し方なかった。前回の行政評価委員会では二週から三週に一度ほどの間隔であった。

事務局

月1回程度を前提として、早めに調整をさせていただきたい。
皆様からご意見を多くいただいたため、事務局として考えていく。

市長入室

5. 答申

会長

市長に答申を申し上げたい。

会長が答申書を読み上げ

市長

まずは感謝を申し上げたい。真剣、活発に議論いただいたことで、この答申があるものと思っている。

○『中央公民館の機能の再定義と再配置/わかたけ広場のキャンプ施設の廃止』について

広く答申をしていただいた。

中央公民館については、合併当初から庁議や行政改革などいろいろな場で文化会館と類似施設であり老朽化も進んでいるため、統合や整理をするべきではないかという話が議論に上がっている。しかし、どちらも旧町の中心にあり、文化サークルなどの加盟団体は減っても住民に愛されており、なかなか進まないまま今まで来た。

わかたけ広場のキャンプ施設の廃止、中央公民館が主に貸館の役割のみとなっている現状に様々な提言や意見を頂く中で、役割や運営方法について再定義が必要と考えたため諮問をさせていただいた。今回の答申を尊重し市としてスピード感をもって取り組みたい。

「郷育カレッジが減免対象であることは再考の余地があるのではないか」という箇所については、補足をいただきたい。

また、組織改定とは何を指すのか。郷育推進課の所属については以前からよく変更されていたが、自分が市長になってからは教育委員会に固定している。また、人事異動があることで、不信感はあるかもしれないが、非効率になっているとは感じない。

市長として責任をもって利活用を図りたい。

会長

郷育カレッジは立ち上がって年数が経っている。事業として受益もあるため、会費の見直しをすることで減免の割合についても見直すことが出来るのではないかと。市の事業であっても支払うところはしっかり支払うべきという考え方をする必要があり、何もかも減免にするのは良くない。元々全ての利用者や利用団体は使用料を支払わなければならない、オプションとして減免措置がある。その中でも郷育カレッジは大きい利用者主体であるため検討する必要があると考える。

市長

郷育カレッジのプログラムの多くは中央公民館で行っているため、郷育カレッジ＝中央公民館というイメージを持っている人は多い。

郷育カレッジの事務局は郷育推進課であるが、運営は郷育カレッジ運営委員会が行っている。運営委員会で今回の答申をもとに自主的に検討していただけるだろうか。

担当課からも助言をしながら、良い方向に持っていけると良い。郷育カレッジは様々な体験ができる良い講座である。

担当課は他の業務などがあり、取り組みがなかなか進まなかったが、行財政改革の対象となっている以上進めていく必要がある。

○『公共施設の使用料、利用料の見直し/大規模公園の使用料の見直し』について

市長

使用料について、力は尽くしたが二度否決をいただいているため、より丁寧な説明が必要と考えている。受け止めさせていただく。

単純に言うとなんが足りないのか。

担当課

所管課として、説明の仕方について検討する必要があると強く再認識している。

市長

自分も一度も住民説明会に行っていないため、次回は行きたい。

最後の段落の受益者負担の必要性については今までも伝えてきたが、なかなか伝わらない。今回の答申で背中を押していただいたように感じた。

○『大和保育所の機能と運営方法の再構築』について

市長

大和保育所の機能や役割などについて様々な角度からご理解をいただいたうえで答申であったと感じる。

○『防災事業/消防団活動支援事業』について

防災事業について、情報発信のわかりやすさについては原課も悩んでいる。天気予報を見て不安になられ、市への問い合わせ等がある。市役所としては气象台と連携して確実な情報を伝えたいと考えている。

プッシュ型の情報についてはこれからの時代本当に必要と感じている。防災無線は一基増やすと莫大なコストがかかるため、プッシュ型で発信を行っていきたいと思う。

自治体未加入の方も同じ市民であるため、地域の防災を充実させる必要がある。中学生との共働についても前向きに検討したい。

消防団について、地域防災の要であり重要ということは総務省や消防庁からも言われている。

消防団についてはイベントを通じて、存在の意義や日頃の活動への理解を求めている。コロナ禍で活動の機会が減少していたが、今後アピールの機会を積極的に設けることや、内部の組織改革などに取り組みたい。

会長

本委員会は方向性の示唆をすることが重要な役割であるため、執行部で検討しアクションにつなげていただきたい。

市長退室

4. 来年度以降の進め方について

事務局

正式には皆さまと議論した上で決めたい。現段階では、前半で行財政改革大綱について、後半で事務事業の評価を行い、来年度は後半のボリュームを増やしたいと考えている。

何を取り上げるかは次年度の初回で決めたい。各課が何に困っているのかなども拾い上げていきたい。

委員

時期はいつごろから始まるのか。

事務局

今年度は委員の皆様のお声かけから始まったため開始が遅れたが、関係予算が可決されれば4月、5月ごろから始めていきたいと考えている。

会長

年度としては今回が最終回であったが、来年度もこのメンバーで様々な事業を検討したい。

以上で閉会する。